

「大海の二つの船」

はるか昔、心理臨床という果てしない大海原が広がっていた。

その海は、時に静かで、時に嵐に荒れ狂い、人々の魂を揺さぶり続けていた。

そこに、一艘の大船があった。

その名は「ユングの船」。

深い無意識の海を読み解く星図を携え、古よりの元型を帆に受け、人々の心の深層を導いてきた偉大な船であった。

その船の横に、小さな小舟が漂っていた。

その名は「臨床動作法の舟」。

海の波に吞まれかけ、沈みそうになりながらも、漕ぎ手のからだから湧き出る力で、しぶとく進もうとしていた。

大船は小舟を見つけ、手を差し伸べた。

「おまえの推進力は、小さくとも確かなもの。私の甲板に上がれ。共に進もう」

こうして、小舟は大船に抱かれた。

だが、その後の航海でわかったことは――

小舟が生み出す「からだの漕ぎ」の力こそが、大船を動かす推進力にもなっていたということだった。

地図と星を読む大船と、からだの力で漕ぐ小舟。

二つは互いに補い合い、やがて一隻の大いなる船となって、大海を越え、新しい大陸を目指して進んでいった。

その大陸は、まだ誰も見たことのない、心とからだの統合の地であった。